

休眠預金制度におけるPOの役割と期待

2020年11月

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構（JANPIA）

事務局長 鈴木均



1. 休眠預金制度のねらい
2. 資金分配団体の7つの役割
3. POの役割



1. 休眠預金制度のねらい

活用の目的

- 1) 国、地方公共団体が対応困難な社会の諸課題の解決を図る
- 2) 民間公益活動の担い手の育成と民間公益活動に係る資金調達の環境を整備

目的達成で期待される効果

- ・社会の諸課題の解決のための
自律的かつ持続的な仕組みの構築
- ・民間公益活動を行う団体の
資金的自立性と事業の持続可能性を確保



- ・社会課題解決能力の飛躍的な向上
- ・SDGsの達成にも貢献

財源（休眠預金）の特性（国民の資産）から重視すること

- ・国民をはじめとするステークホルダー（多様な関係者）への事業の透明性や説明責任
- ・事業成果の可視化 ⇒ 社会インパクト評価の実施
- ・民間公益活動を担う組織の能力強化を目的とした伴走支援（プログラム・オフィサーの確保と育成など）



<休眠預金活用の助成事業で優先的に解決すべき社会の諸課題>

① 子ども及び若者の支援に係る活動

- ・経済的困窮など、家庭内に問題を抱える子どもの支援
- ・日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
- ・社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援

② 日常生活または社会生活を営む上での困難を有する者の支援に関する活動

- ・働くことが困難な人への支援
- ・社会的孤立や差別の解消に向けた支援

③ 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している

地域の支援に関する活動

- ・地域の働く場づくりの支援
- ・安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援



- 共通項は社会的弱者、脆弱な地域の課題解決
- 特にコロナ禍で状況はさらに深刻化
- SDGsとの親和性高く、これらの課題解決を通じてSDGsに貢献

2020年度助成事業の基本方針



- ・資金分配団体及び実行団体の基盤強化のための支援を最優先
- ・実行能力の高い資金分配団体の選考による具体的成果の創出
を目指す

4種類の助成事業

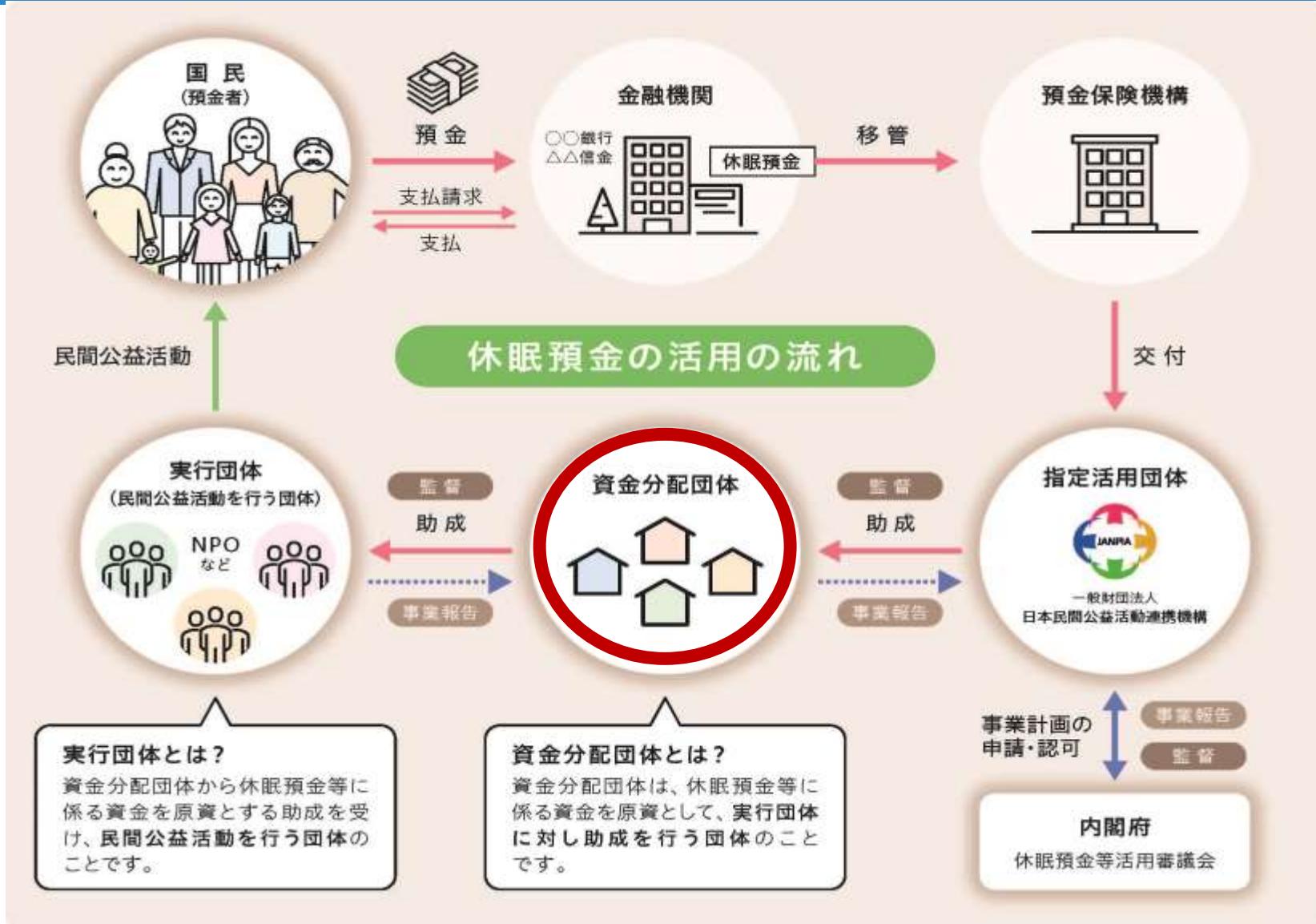
- (1) 草の根活動支援事業
- (2) イノベーション企画支援事業
- (3) ソーシャルビジネス形成支援事業
- (4) 災害支援事業

+ 基盤強化支援事業



2. 資金分配団体の7つの役割

資金分配団体は休眠預金制度の中核



資金分配団体の7つの役割



- 1) JANPIA提示の「優先的に解決すべき社会の諸課題」を踏まえ、地域・分野等ごとの実情と課題を俯瞰的かつ具体的に把握・分析し、**案件の発掘・形成を積極的に行う**
- 2) 社会の諸課題の解決に向け、**「包括的な支援プログラム」を企画・設計し、公募により実行団体を選定し、資金支援及び非資金的支援を必要に応じ伴走型で提供する**
- 3) 実行団体の事業の特性及び発展段階を踏まえつつ、**革新的手法により資金の助成、貸付けまたは出資を行うこと等を通じ、自立した担い手の育成を図る**
- 4) 実行団体による民間公益活動が適切かつ確実に遂行されるように、**実行団体に対する適切な監督を行う**
- 5) 民間の創意・工夫の發揮を促すように支援を行うことで、**社会の諸課題を解決するための革新的な手法を開発し、実用化する**
- 6) 実行団体に対して、**現地調査を含む継続的な進捗管理及び成果評価を点検・検証し、その結果等の有効活用を促す**
- 7) 民間の資金を**民間公益活動に呼び込むための具体策を策定し、実施する**



資金分配団体の助成事業に求められる進化

「JANPIAが定める資金分配団体の7つの役割」を資金分配団体が担えるようになるためには、「助成事業」における考え方と行動のシフトが必要

【従来の助成】

- 案件が持ち込まれる（受け身の助成）
- 「資金提供者」という役割・スタンス
- 事業助成中心
- プログラム単体のインパクト
- 原資の利用
- 結果の評価

【休眠預金の資金分配団体が目指す助成の姿】

- 案件を作る、生み出す「攻めの助成」
- 一緒に成果を生み出す「パートナー」の役割
- 事業助成と組織基盤強化の一体型
- コレクティブ・インパクト
- 原資をもとにリソースを動員（自立化への出口戦略等）
- プロセスと成果を社会的インパクトマネジメントの中で評価し、学びを事業改善へつなげていく



これらの機能の中核となるプログラム・オフィサーの配置と育成が必須



3. POの役割

休眠預金制度におけるPOの役割



- 社会や地域の諸課題を俯瞰的に分析し、それらの解決に有効な助成プログラムを策定し審査
- 助成先に対する伴走支援を中心に、ヒト・モノ・力ネ・情報といった様々な組織内外のリソースをコーディネート
- ワンストップで、実施のプロセスから成果に至るまでにおいて、助成事業運営・進捗管理・評価等の業務の中核的な役割を潤滑油のように果たしていく人材

図表6－1：プログラム・オフィサーの役割と評価項目

	役割（助成事業の各段階）	評価項目（本評価指針上の評価項目）
助成の企画	実行団体への助成事業の策定 <ul style="list-style-type: none">・事業形態の選択・優先分野の設定 等	<ul style="list-style-type: none">・特定された課題の妥当性・特定された事業対象の妥当性
準備段階	申請者の審査・決定 <ul style="list-style-type: none">・申請者との関係構築・申請書の審査（事業内容、予算、事業実施能力等の判断）・申請者とのコミュニケーション・（決定後）事前評価の検証 等	<ul style="list-style-type: none">・事業設計の妥当性・事業計画の妥当性
助成の実行段階	事業管理 <ul style="list-style-type: none">・事業実施のサポート・進捗管理・評価実施のサポート・実行団体の資金的自立化支援（出口戦略検討）・中間評価の検証 等	<ul style="list-style-type: none">・実施状況の適切性・事業実施をとおした知見の共有、活動の改善・組織基盤の強化
	評価の検証～事業の見直し <ul style="list-style-type: none">・事業完了報告の受取・事後評価の検証 等	<ul style="list-style-type: none">・アウトカムの達成度・波及効果・事業の効率性

「休眠預金等活用に係る成果に関する評価指針」p.25より

休眠預金制度の成功にはPOの活動が鍵



JANPIA



パートナーシップ

資金分配団体（PO）



パートナーシップ

実行団体

- 「**JANPIA、資金分配団体が行う非資金的支援（伴走支援）**は、資金分配団体と実行団体の創意工夫が引き出されるよう**相互対等なパートナーシップ**に基づき実施、必要に応じて**外部の団体や専門家とも「連携」した非資金的支援**を行う」（基本方針、事業計画書）
- プログラム・オフィサーは結節点、コーディネータ（つなぎ）役
 - 外部リソースを上手に活用
 - ネットワーキングの重要性
- 日本の新しい民間公益活動への進化、拡大に向け、“連携”的精神で共に歩んでいきましょう！



誰ひとり取り残さない
持続可能な社会作りへの触媒に。

私たちは、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る
資金の活用に関する法律」(休眠預金等活用法)における指定活用団体です。